

福井県の観光振興に関する提言

福井県は日本人の年間の観光客数が都道府県別にみても少ない（「旅行・観光消費動向調査（2019）」）。また、ブランド総合研究所の地域ブランド調査によると全体31位で石川県や富山県に大幅に負けており、ブランド力、知名度に大きな課題を抱えている。また来福外国人観光客も2019年時点で6,4万人であり、全体46位である（訪日外国人消費動向調査）。また福井県全体の観光客層と高消費層の性別や年齢の性質が変わらず（福井県観光客傾向調査 令和4年度）、特定の層に関わらず均一に需要喚起を行っていると考えられる。福井県は歴史や自然、食べ物など優れた観光ポテンシャルを持っていると考えられ、それを効率的に旅行者へPRできておらず、その結果リピーターも少ないのではないかと。私たちは福井県に来ていただける観光客を特定の層（外国人観光客、高所得層など）に絞りこみ、リピーターを増やすことが重要であると考えます。

1 観光一元化アプリ「ふく得」の導入

私たちは福井県の観光アプリを導入し、それを一つにまとめるアイデアを提案する。ターゲットは高消費層である。まずそのアプリを通して、行動ターゲティング機能をつけて観光情報を提供する。宿泊施設や民泊の予約をやすくし、宿泊施設の利便性を高める。またレンタカーやタクシーの予約をアプリ上で取りやすくする事によって、二次交通の利便性を高める。そしてこのアプリの一番のアピールポイントは福井県で消費した額に応じて特別な体験ができるという点だ。例えば福井県での座禅体験や地元産の食材を用いた限定の食事、伝統工芸品の製造体験などだ。この案により福井県に高消費層を引き込むことを促すと考える。

2 北陸エキスポの海外出展

私たちは海外で北陸3県が独自でその魅力を発信するイベントの海外開催を提案する。出展先は中国やインド、東南アジアなどの新興国である。福井県は禅や恐竜など海外に発信できるような魅力が多くある。そこで地域間で連携し競争しあうことによってそれぞれの地域の魅力を高め合うことができる。また外国人にとっては北陸3県でどこに行くか選択を出すことによって北陸3県、更に言えば福井県に行く動機を強める事ができる。

3 体験型旅行の推進

私たちは観光の満足度を上げるために体験型旅行が有効であると考えます。ただ福井県の体験型旅行は全く知名度がない。だからSNS割を導入する。SNSを利用して拡散した人に対し割引する。そうしてSNSを通して来てくれる人が増える。また旅行に来てくれた人の満足度を上げるために観光人材を強化する。県が認可を出し、ガイド等の人材のブランディングを図る。福井県民が積極的に観光に参加し観光客に福井県について知ってもらおう。それが大切であると考えます。

4 学生の観光参画

福井県の県立高校の探究活動において福井県の観光をテーマとして考えてもらう。高校生が自分で自分の地域の観光について考える事により柔軟な発想を観光に取り入れられる。また先述した北陸エキスポに県内の高校生や大学生を派遣することも有効であると考えます。こうすることにより若者が福井県の魅力に気づき人口流出を防ぐ効果も考えられる。

令和5年8月1日

福井県知事 杉本 達治 様

福井県立藤島高等学校

チーム「AGORA」

林 瑞希

山岸 聡

廣野涼介

中野 薫